

# 人生最終段階における医療・ケアの意思決定支援に関する指針

## 1. 目的

本指針は、人生の最終段階を迎える利用者（患者・入所者等）が、その人らしい生き方を尊重され、適切な医療およびケアを受けられるよう、意思決定支援の在り方を明確にすることを目的とする。  
利用者本人の価値観や意思を尊重し、多職種が連携して支援を行う。

## 2. 基本方針

1. 利用者本人の意思を最大限尊重する
2. 本人の意思決定能力の有無にかかわらず、尊厳を守る
3. 家族等および多職種が協働し、話し合いを重ねて支援する
4. 医療・ケアの内容は固定せず、状況の変化に応じて見直す
5. 特定の治療やケアを強制・誘導しない

## 3. 人生最終段階の定義

本指針における人生最終段階とは、回復の見込みが乏しく、生命の維持が困難であると判断される状態であり、疾患や年齢により一律に定義されるものではない。

## 4. 意思決定支援の考え方

意思決定支援は、利用者本人が自らの価値観や希望を表明し、それに基づいた医療・ケアが選択できるよう支援するプロセスである。  
職員は、利用者が十分な情報提供を受け、理解し、納得したうえで意思表示ができるよう努める。

## 5. 本人による意思決定が可能な場合

1. 病状、予後、医療・ケアの選択肢について、分かりやすく説明する
2. 本人の価値観、生活歴、人生観を丁寧に聴き取る
3. 本人の意思を尊重し、記録として残す
4. 意思はいつでも変更可能であることを確認する

## 6. 本人による意思決定が困難な場合

本人の意思決定能力が低下または喪失している場合には、以下の手順で支援を行う。

1. 事前に表明された意思（ACP、リビング・ウィル等）の確認
2. 家族等から本人の価値観やこれまでの意向を聴取
3. 多職種によるカンファレンスを実施し、本人の最善の利益を検討
4. 特定の者の判断に偏らず、合意形成を図る

## 7. 家族等への支援

家族等は大きな心理的負担を抱えることが多いため、十分な説明と対話の機会を確保する。  
家族の意向は尊重するが、本人の意思や尊厳を最優先とする。

## 8. 多職種による連携

医師、看護師、介護職、相談員等の多職種が連携し、継続的に情報共有と検討を行う。  
必要に応じて倫理的観点からの検討を行う。

## 9. 記録と情報共有

意思決定の内容、話し合いの経過、変更点等は適切に記録し、関係職員間で共有する。  
記録は利用者の尊厳と個人情報保護に十分配慮する。

## 10. 職員研修

全職員を対象に、人生最終段階における医療・ケア、意思決定支援、ACP に関する研修を定期的実施し、支援の質の向上を図る。

## 11. 指針の見直し

本指針は、法令、社会情勢、医療・ケアの進展等を踏まえ、必要に応じて見直しを行う。

附則

令和 8 年 1 月 5 日に改定

医療法人社団 EMIFULL  
ただおかメディカルクリニック  
理事長 松尾 太郎